

ほけんだより



病児・病後児保育「みどり」
令和7年12月発行

今月のテーマは「**子どもの皮膚疾患について**」です！

脂漏性湿疹

乳児にみられる湿疹のひとつです。
頭部や顔などに黄色いかさぶたやフケのようなものが付きます。
皮脂が多く分泌されることで症状が出ます。



おむつかぶれ

おむつが当たる部分に赤みや発疹などの炎症がおきます。
おむつかぶれは尿中のアンモニアや皮膚の常在菌の増加による刺激が原因になることが多いですが、ゆるい便の刺激、拭きすぎ、カンジダという皮膚表面にいるカビが原因の場合もあります。
こまめにおむつを替える、汚れた部分はきちんと拭くなど清潔にしましょう。



とびひ

夏に多い皮膚の病気です。
あせもや虫さされを掻いてできた傷に黄色ブドウ球菌や連鎖球菌が感染して炎症がおき、皮膚が赤くジュクジュクし水ぶくれやかさぶたなどができます。
治療は飲み薬や塗り薬の抗菌薬です。皮膚についている菌を減らすことが大切なので、シャワーなどで細菌を流してあげたりしましょう。



リンゴ病

両ほほが赤くなるのでリンゴと呼ばれています。
パルボウイルスというウイルスに感染し、症状がでるまで1週間～10日間あり、風邪のような症状がでます。その1週間後に両ほほが赤くなり、二の腕から先に網目状の赤みが広がっていきます。1年通してみられ、特別な治療はなく、様子を見て自然に症状がひくのを待ちます。

